■奥保鞏　　陸軍軍人。<佐賀の乱>から<日露戦争>までの全てに戦功を挙げ，異例の昇進で，元帥に至った。渾名"南山の奥"。
おくやすたか
・・・・・・1847＝　　豊前国小倉で，藩の小笠原家家臣の奥利右衛門保矩の長男に生まれる。幼名為次郎。

ペリー来航・1853＝ 6歳：

松下村塾・・1856＝ **9歳：**

桜田門外変・1860＝13歳：

生麦事件・・1862＝15歳：本家奥保義の養子となって家督を継ぎ，馬廻・知行300石。七郎左衛門と改名し，小姓，物頭を務める。

禁門の変・・1864＝17歳：**_長州征討で，幕府側小倉藩に従い初陣，**
薩摩藩士密航1865**＝18歳：**
薩長同盟・・1866＝19歳：第二次長州征討にも参加，

明治維新・・1868＝21歳：
戊辰戦争終・1869＝22歳：足軽隊長となり，東京に遊学。

廃藩置県・・1871＝24歳：陸軍に入営し西海鎮台2番大隊小隊長に着任。陸軍大尉心得となり鎮西鎮台(熊本鎮台)に所属。
学問のすすめ1872＝25歳：陸軍大尉に昇進し鹿児島分営所に配属。
明治6年政変 1873＝26歳：
佐賀の乱・・1874**＝27歳：*佐賀の乱には熊本鎮台の中隊長として出征し戦傷，その豪ぶりが軍の内外に知られる。陸軍少佐に進級し，大隊長として台湾出兵に出動し，各地に転戦。**
三つの反乱・1876＝29歳：**_神風連の乱の平定にも参加。**
西南戦争・・1877＝30歳：***西南戦争には，大隊長として熊本城内に籠城戦に参加。突囲隊を組織し，重囲を破って官軍と連絡。この際，敵弾が口から頬にかけて貫通したが，左手で傷口を押さえ右手で軍刀を持ってひるまず指揮，その奮戦ぶりが，錦絵となって売り出される。**
大久保暗殺・1878＝31歳：陸軍中佐に進級し，連隊長となる。
明治14年政変1881＝34歳：
新体詩抄・・1882＝35歳：陸軍大佐に昇進。
岩倉具視没・1883**＝36歳：**

内閣発足・・1885＝38歳：陸軍少将に進級し，歩兵第7旅団長に着任。

帝国憲法発布1889＝42歳：

足尾鉱毒始・1891＝44歳：東宮武官長，
大本教・・・1892**＝45歳：**
郡司千島探検1893＝46歳：近衛歩兵第2旅団長に転補，
日清戦争始・1894＝47歳：***軍事視察のため欧州に派遣されたが，日清戦争のため急遽帰国し，大本営に供奉して広島に行ったところ，第一軍司令官山県有朋が病気で帰還し，第五師団長野津道貫がこれに代わったことから，中将に昇進して第五師団長となり，後半の作戦に従う。**
日清戦争終・1895＝48歳：**_軍功により男爵を叙爵し華族となる。**
白馬会・・・1896＝49歳：第1師団長，
八幡製鉄始・1897＝50歳：近衛師団長。
その後，東京防御総督，東部都督を歴任。
田中正造直訴1901**＝54歳：**
教科書疑獄・1902＝55歳：インドに出張し，
日比谷公園・1903＝56歳：帰国。**_陸軍大将に進級。**
日露戦争始・1904＝57歳：軍事参議官に就任したが，***日露戦争には軍司令官や参謀長人事は薩長出身者がほとんど独占するなか，"奥だけは外せない"と，第二軍司令官として出征，4人の軍司令官のうち唯一人，作戦参謀の補佐無しで作戦計画を立案出来，難聴にもかかわらず，指揮采配に支障をきたすことはなく，幕僚と筆談で意見交換を行ったと言われている。南山の緒戦以来，ロシア軍の主力と戦ったが，その作戦ぶりは水際立って鮮かで，**
日露戦争終・1905＝58歳：**_黒溝台会戦でロシア軍を潰走させ，奉天会戦を最後に，日本の勝利を確定，**
満鉄発足・・1906＝59歳：軍事参議官に再任したが，**_児玉源太郎の急逝を受けて，陸軍参謀総長となり，**
韓国反日暴動1907＝60歳：**_伯爵に叙せられ，**
韓国併合・・1910**＝63歳：**
大逆事件判決1911＝64歳：***薩長・皇族以外で初めて，元帥府に列せられたが，異論を唱えるものが誰もいなかったと言う。**
明治天皇没・1912＝65歳：議定官に就任。

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919**＝72歳：**

原敬首相暗殺1921＝74歳：

天性の軍人らしく，政治向きのことには一切興味を示さず，静かな晩年を過ごして，

共産党事件・1928**＝81歳：**
海軍軍縮条約1930＝83歳：**_没した。**
生涯自分の戦功などを語ったことがなく，むしろ功績を消そうとするようにして，長い晩年を送ったことから，世間からは忘れられ，死去したときも「まだ生きていたのか」と驚く人が少なくなかったという。

インターネットWikipedia，